

幼稚園における家庭・地域との連携を担保する教育実践

——幼稚園教育要領の実践への投影——

佐藤 環*・菱田隆昭**

(2013年9月17日受理)

Educational practices in the kindergarten to secure cooperation with home

Tamaki SATO and Takaaki HISHIDA

キーワード: 幼稚園教育, 幼稚園教育課程, 家庭・地域との連携, 教育実践, 指導案

平成 20(2008)年に改訂された幼稚園教育要領では、従前の教育要領で強調された幼稚園と家庭・地域との連携をより密にするため、保護者との情報交換・幼児と保護者の活動機会を設けることなどが求められた。本稿は、幼稚園教育要領で示された家庭・地域との連携がどのように幼稚園での実践に反映されているかを長期・短期指導計画案や教育実習生の実習日誌を分析して考察を加えることを目的とする。

東京都内の私立 H 幼稚園での年間指導計画は、保護者の幼稚園に対する理解を深める行事として参観参加(日曜参観など)と教育懇談会(クラス会など)を設定している。また、家庭・地域との連携を行う際には、保育活動をその日限りのイベントではなく園児が主体的にその活動に取り組むプロセスを重視せねばならない。さらに教育実習生は、年間指導計画に沿った短期指導計画を基本として教育実習を行うが、具体的な家庭・地域との連携の活動をイメージすることは困難で戸惑うけれども、実習日誌の感想等はフィードバックのための貴重な意見でもある。よって、教育実習前のオリエンテーションの充実、教員と教育実習生ともに行事への参加等を通じて学び、それを再び実践に活かすという循環が一層重要となっていく。この循環については数年単位の実践とその効果等を勘案して検証することが必要であるため、今後の課題としたい。

はじめに

就学前教育機関である幼稚園では、教育段階(学校)相互の一貫性を図るために小学校との連携のほか、教育対象が就学前の幼児であるため家庭や地域との連携を一層充実させることが求められている。

そのため本稿では、まず幼稚園教育課程の基準である『幼稚園教育要領』の変遷を概観して家庭・

*茨城大学教育学部 **こども教育宝仙大学こども教育学部

地域との連携の取扱いを確認し、東京都内の私立 H 幼稚園の年間計画および家庭・地域との連携を目的とした保育活動を行うため教育実習生が作成した指導案や実習日誌を検討することで、幼稚園での家庭・地域との連携を行おうとする実践の実態、効果や課題を明らかにすることを目的とする。

家庭・地域との連携を重視した幼稚園教育

ここでは『幼稚園教育要領』を中心として、戦後における幼稚園と家庭・地域との連携についてその取り扱いの変遷を略述する。

1 試案『保育要領―幼児教育の手引―』時代

昭和 22 (1947) 年 1 月の教育刷新委員会第 18 回総会で「幼稚園を学校体系の一部とし、それに従って幼稚園令を改正すること。尚五才以上の幼児の保育を義務制とすることを希望する」との方針が採択されるにおよび、幼稚園は学校教育法第 1 条校として位置づけられた。文部省はこれを受けて倉橋惣三を委員長とする幼児教育内容調査会を設置して幼稚園教育の標準となる指針の作成に着手し、翌昭和 23 (1948) 年に幼児の興味関心やそれに基づく経験を重視する『保育要領―幼児教育の手引―』(以下『保育要領』とする。)が試案として発表された。

この『保育要領』は、恩物中心の保育に批判的な倉橋の影響により幼児の自由で自発的な活動を重視した「自由遊び」を主体として扱ったが、この「自由遊び」は現在の大衆化した幼稚園でのものとは意味が異なり、例えば、保育内容の「音楽」で使用する鑑賞レコード曲の例示では、日本の童謡や日本人による作品は全くなく、ベートーベン、ハイドン、モーツァルト、チャイコフスキーなど 19 世紀以降の欧米音楽家による作品が取り上げられ、これらを鑑賞することで幼児は「音楽の美しさ」がわかり「生活に潤い」を持つことができるとしたことは、戦前期の都市型「教養主義」の系譜に連なるものと推察される。また『保育要領』は、戦後初めて幼稚園教育内容の公的基準を示したものであったが、その対象は幼稚園だけでなく保育所や家庭教育が含まれていた。

2 1950 年代から 1990 年代にかけての『幼稚園教育要領』

①昭和 31 年版『幼稚園教育要領』

昭和 31 (1956) 年に示された『幼稚園教育要領』の特色は、小学校の教育課程を考慮に入れた指導計画の下、「健康」・「社会」・「自然」・「言語」・「音楽リズム」・「絵画製作」の 6 領域による系統的な保育を志向するものであった。また、小中学校と幼稚園との指導のあり方に相違があることを指摘しつつも、「経験を組織する場合の着眼点」で幼稚園・小学校双方の教員はそれぞれの教育課程を考慮すべきことが強調された。『保育要領』が幼稚園・保育所・家庭における幼児への教育的配慮を示すことが目的であったのに対して、この『幼稚園教育要領』はその対象を幼稚園教育に限定し、幼稚園と小学校とのつながりを強調する。つまり、幼稚園と保育所は、その制度・内容ともにそれぞれの独自性が強調されたのである。

②昭和 39 年版『幼稚園教育要領』

昭和 39 (1964) 年の『幼稚園教育要領』は、文部省告示とされ法的拘束力を有するようになったほか、「各領域は小学校における各教科とその性格が異なるものであることに留意」(第 2 章序

文) すべきとしながらも、「幼稚園修了前の幼児については、小学校へ進学する期待や心構えなどを育てるように配慮する」(第3章「指導上の一般的留意事項」と昭和31年版『幼稚園教育要領』)に生活経験の重要性を考慮に入れつつ若干の加除を施した。この幼小連携の在り方に対しては、評価がわかれた。「教育に一貫性が必要である限り、(幼稚園から大学まで) ずっと一貫して、基本的には同じ諸分野をその内容領域としていることが必要」なのだから一般教養の諸領域をもれなく押さえた小学校や中学校での教科の種類分けに「ほぼ対応している幼稚園の六領域も、領域の大綱を示したものとしては、おおむね妥当」との肯定的な評価がある。対して、「領域分類が小学校教育との一貫性をもたせるということから、幼稚園教育における保育内容に、教科主義的な保育に陥る懸念ができた」、「幼稚園教育が小学校教育の準備教育とされ、六領域を小学校の教科のように考えて指導するという弊害が生じ、その弊害を除去する必要が起こった」、「小学校のように教師主導の保育が日本の保育の中心になり、首を傾げたくなる時代」などと、幼稚園教育を小学校教育と対置させ、その自立性・独自性の担保が主張された。

③平成元年版『幼稚園教育要領』

幼稚園と小学校との接続に配慮する系統的保育を志向した従前の『幼稚園教育要領』が、25年ぶりに改訂された平成元(1989)年版『幼稚園教育要領』で方向転換がなされた。その「総則」において「幼稚園教育の基本」が示され「幼児の主体的活動」を促すことが求められ、また幼児教育の現状に鑑み、従前の6領域を幼児の発達の側面に着目して、心身の健康に関する「健康」、人とかかわりに関する「人間関係」、身近な環境とかかわりに関する「環境」、言葉の獲得に関する「言葉」、感性と表現に関する「表現」の5領域に改められた。さらに、幼稚園教育課程編成において「入園から修了に至るまでの長期的な視野をもって充実した生活が展開できるように配慮しなければならない」(第1章総則)とし、指導計画上の留意点(第3章)においても幼稚園教育が「幼児が自ら意欲をもって環境とかかわることによりつくり出される具体的な活動を通して、その目標の達成を図る」と謳って幼稚園教育の独自性を強調し、幼児の生活が家庭教育を基盤として地域社会を通じて広がりを持つから「家庭との連携を十分図るなど、幼稚園における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開」するよう配慮すべきだとした。幼小連携の方策として平成元(1989)年の『小学校学習指導要領』改訂で小学校低学年の児童に体験的な活動を重視する生活科が新設されるなどにより、幼稚園教育は小学校教育の前段階としての連続性よりも家庭や地域社会と連携する方向性を打ち出した。

④平成10年版『幼稚園教育要領』

平成10(1998)年の『幼稚園教育要領』では、「生きる力」の基礎となる心情、意欲、態度などを涵養することが幼稚園教育の目的とされ、その指導において「幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活態度などの基礎を培うようにする」(第3章、一般的な留意事項)ことが明記され、幼稚園と小学校との連続性に関する事項が復活した。同年に告示された小学校学習指導要領でも、「小学校間や幼稚園、中学校、盲学校、聾学校及び養護学校などとの間の連携や交流を図る」(指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項)こととされ、学校階梯間の緊密な連携の促進が期待された。

また平成10(1998)年版の『幼稚園教育要領解説』では、幼稚園教育は小学校教育の先取りではなく、小学校以降の生活や学習の基盤となる「幼児期にふさわしい教育」を行い、「幼児期の発

達に応じて幼児の生きる力の基礎を育成」することが目的であり、また幼稚園「修了近い時期」に小学校入学を念頭に置く指導も併せて行うこととした。このほか、幼稚園教育には、新たに子育て支援や預かり保育といった新しい役割が明示された。子育てを支援するために幼稚園が地域における幼児教育センター的役割を担っていると強調し、魅力ある幼稚園づくり事業による「預かり保育事業」を平成 9 (1997) 年より実施して、幼稚園での保育時間終了後や通常の保育時間以外で希望者を対象に保育を行った。「指導計画作成上の留意事項」として、幼稚園での生活が家庭や地域社会との連続性を保つよう「家庭との連携を十分に図る」ようにすることが記された。

3 現行（平成 20 年版）幼稚園教育要領の特色

平成 20 (2008) 年に改訂された『幼稚園教育要領』では、まず発達や学びの連続性をふまえた幼稚園教育の充実を図るため生活経験に配慮すること、小学校教育との円滑な接続のため幼児と児童の交流や幼小教員が合同して意見交換・研究の機会を設けること、障害のある幼児への指導などが求められた。次に子育て支援と預かり保育の充実のため、幼稚園のもつ機能や設備を地域に開放し「地域における幼児期の教育センター」としての役割が重視され、さらに預かり保育が教育活動の一環として位置づけられた。そして幼稚園教育と家庭教育の連続性をふまえた幼児教育の充実を図るため、家庭・小学校との連携が強調された。特に家庭との連携では、保護者との情報交換・保護者と幼児との活動の機会を設けることにより保護者が幼児期の教育に関する理解が深まるよう配慮することが新たに求められた。

幼稚園における指導案への反映

1 長期の指導計画（年間指導計画）にみる家庭・地域社会との連携

ここでは、家庭や地域社会との連携がどのように実際の指導計画に盛り込まれているのかを分析する。指導計画は、幼稚園の教育方針を基にした全体的な計画である教育課程を、幼児一人ひとりの発達を考慮に入れながら作成した具体的な保育計画である。指導計画には、長期的に発達を見通した年間指導計画、期間指導計画、月間指導計画などの長期の指導計画と、より具体的な幼児の生活に即した週案、日案、部分指導計画（時案）などの短期の指導計画がある。ここでは、長期の指導計画として年間指導計画を取り上げる。

東京都内の私立 H 幼稚園では、年齢別の年間指導計画の他に幼稚園全体の年間予定である「園行事の指導計画」があり、その中に家庭や地域社会との連携が盛り込まれている。H 幼稚園の園行事は、①仏教的願いをもった行事、②保育活動を盛り上げる行事、③経験させたい社会行事、④健康に関する行事、⑤園外保育、⑥保護者の理解を深める行事、⑦安全に関する行事の 7 種類に分類されている。家庭や地域社会との連携は、幼稚園における活動全体を通して行われるものであろうが、指導計画レベルでは、家庭との連携が⑥保護者の理解を深める行事と⑤園外保育、地域社会との連携が⑤園外保育と密接な関連をもっている。資料 3-1 は⑥保護者の理解を深める行事、資料 3-2 は⑤園外保育を「園行事の指導計画」から、それぞれ抜き出したものである。

まずは、家庭との連携を資料 3-1 から見てみる。H 幼稚園では、保護者の理解を深める行事として、参観参加と教育懇談会がある。前者は食事参観や日曜参観、祖父母参観等の保育参観と誕生

会や「みたままつり」、宝仙祭（学園祭）といった保育参加によるもので、後者はクラス会やグループ懇談会、個人面談等の園と家庭との共通理解を図る場の設定となっている。また、資料 3-2 にあるように、園外保育に親子で参加することで、親子は勿論のこと、保護者と保育者、保護者同士の親睦を図るねらいがこめられている。これらは、「家庭との連携に当たっては、保護者との情報交換の機会を設けたり、保護者と幼児との活動の機会を設けたりすることを通じて、保護者の幼児期の教育に関する理解が深まるよう配慮すること」とした『幼稚園教育要領』の趣旨を指導計画に具体化したものといえよう。

次に、地域社会との連携であるが、季節ごとの自然と触れ合い、消防署や国立科学博物館等の見学、バスの乗り降りや公共の場でのマナーを知る機会を園外保育で実施している。これらの活動も、「地域の自然、人材、行事や公共施設などの地域の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験を得られるように工夫する」とこととする『幼稚園教育要領』の具体化である。ただし、幼稚園教育は、各園により教育理念や保育方針、地域の状況、子どもの実態等が多様であるため、地域との連携が家庭との連携以上に幅の広いものになるであろう。また、保育所の地域連携は、子育て支援事業の一環としての役割が大きく、保育所の施設開放を通して行うケースが多いが、幼稚園の地域連携は「地域の資源を活用し、幼児の心を揺り動かすような豊かな体験が得られる機会を積極的に設けていく必要」性から、保育の一環として幼児が園外へ出向き、地域社会と関わるケースが多いと考えられる。

H 幼稚園では、行事の中心に園児をおき、「行事のために練習をするということではなく、園児たちの興味や関心、期待、喜びなどの気持ちを大切にしながら」、日常における保育の延長上に行事をとらえている。そのような行事観に基づいた「園行事の指導計画」の中に、家庭や地域社会との連携に関わる保育活動及び取り組みを盛り込んでいることは、それらが保育活動の過程のひとつと位置づけられ、「その日だけのものではなく、園児の成長過程の山場がその行事に当たるように考慮して」、長期の指導計画に反映させていることになる。

長期の指導計画に家庭や地域社会との連携を盛り込む際には、園児が日常の生活を豊かにしていくために、それら連携に関わる活動に対し、いかに園児が主体的に取り組むかのプロセスとして構想する視点が大切となる。それには、連携に関わる活動のねらいを明確にし、園児がどのように変わっていくのかを見通しながら、活動をその日限りのイベントとするのではなく、園児の日常生活を豊かにするものとして立案する必要がある。

2 短期の指導計画（部分活動の指導計画）にみる家庭・地域との連携

幼稚園教育実習期間中に、実習生が実際に家庭や地域社会との連携に関わる活動を指導計画として立案するケースは、ほとんどない。幼稚園がトラブル防止を理由に、実習生と保護者との直接的な接点をもたせがらないためである。数少ない家庭との連携の場面としては、園児の送迎時に担任教諭の補助として園舎あるいは送迎バスでの保護者対応等が挙げられよう。また、保育参観や行事では観客中心の関わりとなるが、短期の指導計画として部分実習の指導計画を取り上げる。

資料 3-3、資料 3-4 は埼玉県 S 幼稚園の父の日参観の部分計画案とその実習日誌である。また、資料 3-5、資料 3-6 が東京都 H 幼稚園の消防署見学の指導計画と実習日誌の記述である。どちらの指導計画も幼稚園の教員が作成したものであり、ねらいとその実現のための内容が立案されているが、実習生の実習日誌の「実習生の活動」欄にはそのねらいを踏まえて、行動した記述が見当た

資料 3-1

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
家庭への理解を深める行事	<p>◆参加・参加をとおして幼稚園の教育への理解を深める</p> <p>◆誕生会(年長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6歳の誕生日を母親と共に祝い、成長を感じてもらおう <p>◆母親に対する子どもたちの思いを、解れ合いなどをとおして感じる機会とする</p> <ul style="list-style-type: none"> 食事参観 母親も一緒に食卓しながら、食事の内容(色、味、献立)、食事の仕方、指導の姿勢の理解を得る 来賓団、園生面への配慮に対する理解を得る(栄養士の話) ◆みたままつり 子どもと共にながらをたいしたり、益腐りをしたりして、お昼の雰囲気を感じる 	<p>◆日曜参観</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもも母やクラスの様子、園での生活に取り組み意を知り、幼稚園の教育の理解を得る(園長懇談会) 	<p>◆楽しい園児の集い</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子で参観することを楽しむ ◆はみせんスポーツDAY 親子で一緒に身体を動かして運動遊びを楽しむ、成長を感じてもらおう ◆宝物祭 子どもの作品を見学し、学園全体で行う学園祭をとおして、教育の趣向の理解を得る 	<p>◆楽しい親子の集い</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体活動運動会とおして前運動活動への理解を得る 3学年の子どもの姿を見て、子どもの成長に期待をもつ 	<p>◆楽しい親子の集い</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子で参観することを楽しむ ◆はみせんスポーツDAY 親子で一緒に身体を動かして運動遊びを楽しむ、成長を感じてもらおう ◆宝物祭 子どもの作品を見学し、学園全体で行う学園祭をとおして、教育の趣向の理解を得る 	<p>◆楽しい園児の集い</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子で参観することを楽しむ ◆はみせんスポーツDAY 親子で一緒に身体を動かして運動遊びを楽しむ、成長を感じてもらおう ◆宝物祭 子どもの作品を見学し、学園全体で行う学園祭をとおして、教育の趣向の理解を得る 	<p>◆楽しい園児の集い</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子で参観することを楽しむ ◆はみせんスポーツDAY 親子で一緒に身体を動かして運動遊びを楽しむ、成長を感じてもらおう ◆宝物祭 子どもの作品を見学し、学園全体で行う学園祭をとおして、教育の趣向の理解を得る 	<p>◆楽しい園児の集い</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子で参観することを楽しむ ◆はみせんスポーツDAY 親子で一緒に身体を動かして運動遊びを楽しむ、成長を感じてもらおう ◆宝物祭 子どもの作品を見学し、学園全体で行う学園祭をとおして、教育の趣向の理解を得る 	<p>◆楽しい園児の集い</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子で参観することを楽しむ ◆はみせんスポーツDAY 親子で一緒に身体を動かして運動遊びを楽しむ、成長を感じてもらおう ◆宝物祭 子どもの作品を見学し、学園全体で行う学園祭をとおして、教育の趣向の理解を得る 	<p>◆楽しい園児の集い</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子で参観することを楽しむ ◆はみせんスポーツDAY 親子で一緒に身体を動かして運動遊びを楽しむ、成長を感じてもらおう ◆宝物祭 子どもの作品を見学し、学園全体で行う学園祭をとおして、教育の趣向の理解を得る 	<p>◆楽しい園児の集い</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子で参観することを楽しむ ◆はみせんスポーツDAY 親子で一緒に身体を動かして運動遊びを楽しむ、成長を感じてもらおう ◆宝物祭 子どもの作品を見学し、学園全体で行う学園祭をとおして、教育の趣向の理解を得る 	<p>◆楽しい園児の集い</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子で参観することを楽しむ ◆はみせんスポーツDAY 親子で一緒に身体を動かして運動遊びを楽しむ、成長を感じてもらおう ◆宝物祭 子どもの作品を見学し、学園全体で行う学園祭をとおして、教育の趣向の理解を得る
	<p>◆臨時個人面談(年間を通して)</p> <ul style="list-style-type: none"> 園々の成長の確認 <p>◆個人面談</p> <ul style="list-style-type: none"> 園での様子、園々の受け止め(親子持)および方向づけ <p>◆学年の教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度の教育方針 3歳児の発達 行事の進め(1学期) クラス運営(年間目標・1学期の方針) 母 自己紹介 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め アンケートをもとに話し合い 夏休みの過ごし方 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) 	<p>◆個人面談</p> <ul style="list-style-type: none"> 園での様子、園々の受け止め(親子持)および方向づけ <p>◆学年の教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度の教育方針 3歳児の発達 行事の進め(1学期) クラス運営(年間目標・1学期の方針) 母 自己紹介 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め アンケートをもとに話し合い 夏休みの過ごし方 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) 	<p>◆個人面談</p> <ul style="list-style-type: none"> 園での様子、園々の受け止め(親子持)および方向づけ <p>◆学年の教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度の教育方針 3歳児の発達 行事の進め(1学期) クラス運営(年間目標・1学期の方針) 母 自己紹介 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め アンケートをもとに話し合い 夏休みの過ごし方 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) 	<p>◆個人面談</p> <ul style="list-style-type: none"> 園での様子、園々の受け止め(親子持)および方向づけ <p>◆学年の教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度の教育方針 3歳児の発達 行事の進め(1学期) クラス運営(年間目標・1学期の方針) 母 自己紹介 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め アンケートをもとに話し合い 夏休みの過ごし方 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) 	<p>◆個人面談</p> <ul style="list-style-type: none"> 園での様子、園々の受け止め(親子持)および方向づけ <p>◆学年の教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度の教育方針 3歳児の発達 行事の進め(1学期) クラス運営(年間目標・1学期の方針) 母 自己紹介 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め アンケートをもとに話し合い 夏休みの過ごし方 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) 	<p>◆個人面談</p> <ul style="list-style-type: none"> 園での様子、園々の受け止め(親子持)および方向づけ <p>◆学年の教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度の教育方針 3歳児の発達 行事の進め(1学期) クラス運営(年間目標・1学期の方針) 母 自己紹介 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め アンケートをもとに話し合い 夏休みの過ごし方 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) 	<p>◆個人面談</p> <ul style="list-style-type: none"> 園での様子、園々の受け止め(親子持)および方向づけ <p>◆学年の教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度の教育方針 3歳児の発達 行事の進め(1学期) クラス運営(年間目標・1学期の方針) 母 自己紹介 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め アンケートをもとに話し合い 夏休みの過ごし方 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) 	<p>◆個人面談</p> <ul style="list-style-type: none"> 園での様子、園々の受け止め(親子持)および方向づけ <p>◆学年の教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度の教育方針 3歳児の発達 行事の進め(1学期) クラス運営(年間目標・1学期の方針) 母 自己紹介 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め アンケートをもとに話し合い 夏休みの過ごし方 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) 	<p>◆個人面談</p> <ul style="list-style-type: none"> 園での様子、園々の受け止め(親子持)および方向づけ <p>◆学年の教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度の教育方針 3歳児の発達 行事の進め(1学期) クラス運営(年間目標・1学期の方針) 母 自己紹介 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め アンケートをもとに話し合い 夏休みの過ごし方 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) 	<p>◆個人面談</p> <ul style="list-style-type: none"> 園での様子、園々の受け止め(親子持)および方向づけ <p>◆学年の教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度の教育方針 3歳児の発達 行事の進め(1学期) クラス運営(年間目標・1学期の方針) 母 自己紹介 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め アンケートをもとに話し合い 夏休みの過ごし方 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) 	<p>◆個人面談</p> <ul style="list-style-type: none"> 園での様子、園々の受け止め(親子持)および方向づけ <p>◆学年の教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度の教育方針 3歳児の発達 行事の進め(1学期) クラス運営(年間目標・1学期の方針) 母 自己紹介 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め アンケートをもとに話し合い 夏休みの過ごし方 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) 	<p>◆個人面談</p> <ul style="list-style-type: none"> 園での様子、園々の受け止め(親子持)および方向づけ <p>◆学年の教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度の教育方針 3歳児の発達 行事の進め(1学期) クラス運営(年間目標・1学期の方針) 母 自己紹介 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め アンケートをもとに話し合い 夏休みの過ごし方 <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針) <p>◆学年の成長の認め</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の成長の認め(生活、意欲) 夏休みの過ごし方 クラス運営(3学期の方針)

園行事の指導計画・3 (田苗孝子編『教育計画 2012-21世紀の幼児教育計画』至仙学園幼稚園、平成24年3月31日、35頁)を一部修正の上、転載。

らない。実習生の活動は、教員の活動の模倣に終始している。

資料3-3 部分指導計画案（父の日参観，埼玉県S幼稚園）

父の日参観について（職員用）																					
<ねらい> ・父の日を知り，父親に感謝の気持ちをもつ。 ・お父さんと一緒に，幼稚園での一日を楽しむ。																					
<日時> ・平成25年6月16日（日） 10：00～12：00 （雨天時，年中少は11：45まで）																					
<日程> 8：30 登園 9：45 レコード 10：00 朝礼（園長挨拶，会長挨拶，年長児挨拶，「ステキなパン」 「園歌」を歌う，体操） 10：45 室内保育（紙粘土製作：年中…花びん，年中少…ペンダント） 11：45 バスに乗る親子がいたら，職員室へ連れて行く。 12：00 降園																					
<<雨天の場合の日程>> <table border="0" style="width:100%;"> <tr> <td style="width:50%;">(年長) 8：30 登園</td> <td style="width:50%;">(年中少) 8：30 登園</td> </tr> <tr> <td>9：45 レコード</td> <td>9：45 レコード</td> </tr> <tr> <td>10：00 園長挨拶（年長児のみホールにて）</td> <td>10：00 室内保育</td> </tr> <tr> <td>会長挨拶</td> <td>(紙粘土製作)</td> </tr> <tr> <td>年長児の挨拶</td> <td>11：45 降園</td> </tr> <tr> <td>体操</td> <td></td> </tr> <tr> <td>室内保育（紙粘土製作）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11：45 バスに乗る園児がいたら，</td> <td></td> </tr> <tr> <td>職員室に連れてくる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12：00 降園</td> <td></td> </tr> </table>		(年長) 8：30 登園	(年中少) 8：30 登園	9：45 レコード	9：45 レコード	10：00 園長挨拶（年長児のみホールにて）	10：00 室内保育	会長挨拶	(紙粘土製作)	年長児の挨拶	11：45 降園	体操		室内保育（紙粘土製作）		11：45 バスに乗る園児がいたら，		職員室に連れてくる。		12：00 降園	
(年長) 8：30 登園	(年中少) 8：30 登園																				
9：45 レコード	9：45 レコード																				
10：00 園長挨拶（年長児のみホールにて）	10：00 室内保育																				
会長挨拶	(紙粘土製作)																				
年長児の挨拶	11：45 降園																				
体操																					
室内保育（紙粘土製作）																					
11：45 バスに乗る園児がいたら，																					
職員室に連れてくる。																					
12：00 降園																					

資料3-4 父の日参観（埼玉県S幼稚園）の日の実習日誌（抄）

第10日目 実習生氏名 K・F				園調印	担任印
6月16日	日曜日	天候 雨のち晴れ	すみれ組 4歳児		
今日の実習課題 ①父の日参観での親子の関わりを学ぶ。 ②保育者の声掛けや環境構成を学ぶ。					
時間	子どもの活動	環境構成と準備・教員の活動	実習生の活動		

8:30	登園。友達や保育者へタッチしながら挨拶をする。身支度が終わった子から、室内で自由に遊ぶ。	登園してきた子どもたちにタッチをしながら、視診をする。 子どもたちの様子を見守りながら、折り紙の折り方を教えたり、援助したりする。 保護者へ挨拶をする。	登園してきた子どもたちへタッチをしながら、視診をする。 身支度が整った子どもたちと保育室でブロックや積み木、折り紙で遊ぶ。
9:45	片付け、排泄、手洗い、うがい。(略)	レコードが鳴ったことを子どもたちに伝え、片付けをするように声掛けをする。 (略)	子どもたちと一緒に片付けをする。(略)
10:00	「さんぽ」「かたつむり」「おはようのうた」を大きな声で歌う。朝の挨拶をする。	全員が前ったことを確認し、「さんぽ」「かたつむり」「バスごっこ」を弾き歌う。「おはようのうた」を元気よく歌うように促す。	子どもたちの様子を見ながら、一緒に歌を歌う。(略)
10:10	朝の会。名前を呼ばれたら、大きな声で返事をする。返事をしながら、保護者の顔を見ている。	出席確認をする。子どもが返事をした後、保護者にも声を掛け、子どもたちの顔と保護者の顔を確認しながら、出席をとる。	返事の声聞きながら、子どもとその保護者を確認する。
10:15	紙粘土製作。保育者の話を聞き、今にも紙粘土に手が伸びそうな子どもがいる。紙粘土とスタンドが配られ、保護者へ椅子を譲って製作を始める。	子どもたちと手遊び「さかながはなて」をし、紙粘土でペンスタンドを作ることを伝える。説明と約束事を子どもに伝え、保護者へも声掛けをする。終わりの時間を伝え、紙粘土とスタンドを配りながら、保護者に椅子に座るよう促す。子どもたちが保護者と一緒に製作をしている様子を見ながら、保護者とも話をする。	保護者が椅子に座りやすいように机を少し離しておく。子どもが保護者と何をやるか、話を決めていく様子を見守る。
10:50	紙粘土を練りながら、保護者と話をしながら製作活動に打ち込む。	終了時間がもうすぐであることを伝え、出来上がった作品は、ロッカーの上に置くように声を掛ける。	ペンスタンドを作りながら、「できたよ」と実習生に声を掛けてくる子どもたちへ、「よくできたね」と言う。
11:00	片付け。(略)	(略)	(略)
11:15	フォークダンス。(略)	(略)	(略)
11:25	着席。保護者と席に着き、楽しかったことを保育者へ伝える。父親の顔を見ながら、「すてきなパパ」を歌う。	保護者と席に着くよう声掛けをし、紙粘土で作ったペンスタンドが乾いたら、着色することを伝える。父の日であることを伝え、「すてきなパパ」を歌うことを伝える。	ペンスタンドに色を塗ることを楽しみにして、いつ塗るのか聞いてくる子どもに、保育者から説明があることを伝える。 (略)
11:30	帰りの支度・帰りの会。帰りの支度をして、席に	子どもたちに帰りの支度をするよう声掛けをし、その様子を見守る。	子どもたちと一緒に歌を歌う。 子どもたちと一緒に帰りの挨拶

	着く。「あめふりくまのこ」「アイアイ」を歌う。 椅子を仕舞い、「おかえりのうた」を歌う。 帰りの挨拶をする。	全員が揃ったことを確認し、「あめふりくまのこ」「アイアイ」を弾き、歌う。 帰りの挨拶をすることを伝え「おかえりのうた」を弾き、歌う。 今日はお父さんと一緒に帰ることを伝え、帰りの挨拶をする。	挨拶をする。 保育室の出入り口で、子どもたちに「さようなら」をする。
--	--	---	---------------------------------------

K 大学 4 年生 K・F さんの「実習日誌—教育実習 II—」より抜粋。

資料 3-5 部分指導計画案（消防署見学，東京都 H 幼稚園）

平成 25 年度 消防署見学（案）			
<ねらい> ○消防署の様子に興味関心をもって見学し，安全への理解を深める。 ○働く人への感謝の気持ちをもつ。 ○交通ルールを守って，安全に歩く。			
<日 時> 平成 25 年 6 月 7 日（金） 9：40～10：40 ※雨天決行			
<園 児> 年長月組（26 名），年長森組（27 名），年長池組（26 名） 合計 79 名			
<引率教員> T 園長，各クラス担任			
<日 程>			
時間	活動	幼児の姿・	指導上の留意点
9：00	登園（保育室に集合）	帽子をかぶる。水筒を持つ。	点呼。
9：10	園庭の丸水道に集合		H 教諭が挨拶をする。
9：15	園を出発	月→池→森組の順番で出発。	交通ルールを伝える。
9：40	消防署到着 見学開始 ※当日の災害状況により内容の変更あり。 質問コーナー	お花を渡す（各クラス 1 名）。 訓練の様子を見る。 ポンプ車訓練テスト，はしご車，救急車を見る。 消防服に触れる。資材を見る。 質問をする。	T 園長が入口受付をする。 H 教諭が挨拶をする。 H 教諭が試着する。 防災教育の視点をもつ。
10：40	消防署を出発する。	月→池→森組の順番で出発。	
11：00	幼稚園に到着する。	トイレ，手洗いうがいをする。 順次，食事の準備	点呼。安全に留意する。
<その他> ○雨天決行。職員はタオルを持っていく。 ○消防署へのお礼（3,000 円の鉢植え 3 鉢）。			

- H 教諭が M 花園に注文する。各リーダー1人ずつに渡してもらう。
- 前日までの導入時、消防署での質問が出てくるように各クラスで話をする。
- 見学の仕事は、各クラスの担任同士が臨機応変に回って行く。
- 当日の午後に消防署の絵を書く。
- アルバム写真に使用する写真を撮影する為、教員はカメラを持参する。

資料3-6 消防署見学（東京都 H 幼稚園）の日の実習日誌（抄）

第 4 日目		実習生氏名		M・H		園調印	担任印
6月 7日		金 曜日	天候	曇り	池 組	5 歳児	
今日の実習課題 保育者から提案して、遊びに誘う							
時間	子どもの活動	環境構成と準備・教員の活動			実習生の活動		
9:00	<ul style="list-style-type: none"> ・順次登園をし、傘を保育室へ持って行く。 ・朝の支度をし、排泄をしたら、帽子をかぶり、水筒を持つ。 ・保育室に集まって、出席を取り、担任の話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の支度をしたら、排泄をして、帽子と水筒を身に付けるように声を掛ける。 ・保育室へ集まるように声を掛け、出席をとり、持ち物の確認や交通ルールの話をする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・玄関で子どもたちや保護者に挨拶をし、傘を保育室へ持って行くように声を掛ける。 ・準備に手間取っている子どもには、みんなが待っていることを伝え、急ぐように促す。援助する。 		
9:10	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭の丸水道へ集合。 ・クラスごとに集まり、2列に並んで出発する。 ・端によって歩き、交差点や信号では、気を付けて渡る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丸水道前に集まるように伝える。 ・隣の子ともと手を繋ぐように声を掛ける。 ・広がらないで歩くように伝え、交差点や信号では、車や通行人に気をつけるように歩道に立つ。 			<ul style="list-style-type: none"> ・担任と同じように、子どもたちが、安全に消防署へ行けるように行動する。 ・ 		
9:40	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署に到着。消防署の方に挨拶をし、見学する。 ・たくさんのことに興味をもち、質問する。 ・室内へ移動し、消防士の話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の方に挨拶するように声掛けをし、見学するように伝える。 ・担任が前で誘導し、消防車について説明を聞くように声掛けをする。 ・担任の後について移動し、別室で消防士の話を聞くように伝える。 			<ul style="list-style-type: none"> ・おしゃべりしている子どもに対し、今は消防署の人が話をしていることを伝える。 ・話が聞こえない位置にいる子どもに、そこで聞こえるかと尋ね、聞こえるところへ移動するように伝える。 		
10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の方に挨拶をし、幼稚園へ出発する。 ・隣の子ともと手を繋ぎ、端によって歩く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防士へお礼の挨拶をするように声掛けをし、幼稚園へ出発する。 ・途中は、来た道を帰ることと、約束事を確認する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に挨拶をし、挨拶しない子どもへは、挨拶するように伝える。 ・道に広がらないように促す。 		

10:50	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園に到着し、排泄、手洗い、うがいをし、席に着く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着席するように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・到着した子どもたちに、排泄、手洗い、うがいをしてから、席に着くよう伝える。
(略)	(略)	(略)	(略)
11:55	<ul style="list-style-type: none"> ・食後の挨拶をする。 ・実習生の話聞いて、発言する。 ・椅子と食器を片付け、うがいをしたら、紙とクレヨンを取り、消防署の絵を描く。 ・絵が描けたら、応援旗に棒を付ける。(略) 	<ul style="list-style-type: none"> ・食後の挨拶をする。午後の予定を伝える。 ・紙とクレヨンを取り、消防署で見たものを描くように声掛けをする。 ・絵が描き終わったら、応援の旗に棒を付けるように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感謝の気持ちをもって食事ができたか、残さず食べることができたか、子どもたちに声を掛ける。 ・消防署でどんなものを見てきたか、イメージを広げる問いかけをする。 ・旗が棒から取れないように、丈夫に付けるよう声掛けする。
(略)	(略)	(略)	(略)

K 大学 4 年生 M・H さんの「実習日誌－教育実習Ⅱ－」より抜粋。

2 週間の実習期間中において、園児の姿を捉えての部分実習や責任実習の指導計画立案は可能でも、家庭や地域社会の連携の活動をねらいからイメージすることは難しいと言える。「実習生の活動」欄には、教員の活動と同様の行為あるいは活動を踏まえての補助的活動を実習生が実施している様子が記されている。実習生は、具体的な家庭や地域社会との関わりそのものの経験不足もあろうが、実習園における家庭や地域社会の連携のあり方、年間あるいは期間の長期指導計画における活動の流れが明確でないため、短期の指導計画を表面的にしか把握できないのではないだろうか。

保育実践からのフィードバック－実習生の実習日誌から指導計画へ－

幼稚園では、園児の背景にある家庭や地域社会を踏まえた保育活動を展開するため、学生も幼稚園と家庭や地域社会との連携を指導計画に立案・実践することを保育現場に出ると否応なく求められ、その視点の持ち方や実際的な記入方法の技術は、教育実習段階でも養われると考えられる。そこで、私立 K 大学 4 年生が平成 25 (2013) 年 6 月に行った教育実習の日誌の記述から、幼稚園と家庭や地域社会との連携の場面を抜き出し考察することで、指導計画へ反映させる視点及び留意点を探りたい。

資料 4-1 から資料 4-3 は、家庭との連携の一環である保護者参観の日のものである。資料 4-1 では、実習生が保護者参観では、子どもたちがいつもと様子が違うことに気づいており、指導者も参観日は「子ども一人ひとり」をよく見て保育を展開していると評価している。資料 4-2 では、資料 4-1 同様、親子参加型の保護者参観であり、そのための準備の大切さが記されている。また、保護者には自分の子どもだけではなく、友達の姿や友人関係を知ってもらい、園は親子協同の活動

を通して、家庭での様子を知ることで、家庭との連携を深めたいと考えている。資料4-3では、6月第3日曜を父の日としているため、6月に父親参観を設定している園が多いが、家庭環境への配慮から単に保護者参観日としている。しかし、M幼稚園では、父親の役割の大きさを子どもたちに伝えるため、父親参観としていることが、記されている。実習生は、各幼稚園における保護者参観日のねらいを理解して、保育者の動きを予想することが求められよう。資料4-4は、H幼稚園における消防署見学の日の日誌の記述であり、テーマとしては地域の人材や公共施設などの地域資源の活用具体化であるが、実習生の関心や指導者の指示は消防署への往復時の交通安全に重点が置かれている。これは、交通安全及び災害時の基本的な対処の仕方を、「適切な指導を具体的な体験を通して繰り返し行う」ための地域社会との連携の一例とも言える。

資料4-1 実習日誌(抄)(K・Fさん, 2013年6月16日)

学んだこと・感想・反省・自分への気づき・質問事項など
<p>今日の実習では、責任実習も終わり、子どもたちの様子も少し変わったように見えた。また、父の日参観であったため、いつも自分で出来る事が出来ず、親がいることで、甘えている姿が見られた。父の日参観では、保護者とのような模様や形にしようか話し合いながら、紙粘土でペンスタンドを作っている姿があり、子どもだけでなく、保護者もとても楽しそうであった。</p> <p>保育者は、子どもたちに紙粘土でペンスタンドの作り方を説明した後、保護者に対しても保護者に気を付けて欲しいことなどを説明していた。子どもたちだけではなく、保護者への声掛けも大切であることを実感した。(略)</p>
指導者の所見・助言
<p>実習お疲れ様でした。参観日は、お家の方がいる為、嬉しい反面、緊張したりして、いつもと違う様子の子もいます。子ども一人ひとりをよく見て、保育を展開できるように心掛けています。お父さんと過ごす貴重な日なので、ペンスタンド製作やフォークダンスを楽しそうに行う姿を見て嬉しく思いました。何より子どもが、楽しむことが大切です。これからも学んだことを活かして頑張って下さい。</p> <p style="text-align: right;">指導者名 H・T 印</p>

K大学4年生K・Fさんの「実習日誌-教育実習II-」より抜粋。

資料4-2 実習日誌(抄)(M・Yさん, 2013年6月9日)

学んだこと・感想・反省・自分への気づき・質問事項など
<p>今回の実習では、親子参観という貴重な行事を観察させていただきました。保護者の方との登園、幼稚園での活動が出来る喜びから、子どもはいつもより表情も明るく、元気なように見えました。保護者が来てくれて嬉しい、かっこいい所を見せたいという気持ちが伝わってきました。保護者の方も、自分の子が園でどのような活動を行っているのか、どんな様子を生活を送っているのか、写真やビデオに収めながら、観察できることを喜んでいるようでした。(略)</p> <p>最後の絵本の読み聞かせでは、保育者が読むのではなく、保育者が7枚のくじを引き、子どもの服についている番号に当たった7名の保護者が絵本に出てくる登場人物に分かれて、読み聞かせをしました。保護者が読むことで、子どもたちも絵本を集中して聞き、楽しんでいるように感じました。</p> <p>親子参観では、親子が関わりながら楽しんでいける活動が中心となっていて、保育者はそのために、メダルを用</p>

<p>意したり、くじを作って絵本を読んでもらったり、活動の説明のしかた、環境構成などを考え、工夫していることを見ることが出来、とても勉強になりました。</p>
<p>指導者の所見・助言</p>
<p>保育参観では、普段園での様子を見ることのない保護者の方に園での様子やお友達との関わりを見てもらうよい機会だと思っています。また親子や製作ゲームをすることで、親子の触れ合いの時間がもて、その様子を見ることで、家庭での様子を垣間見ることが出来たら良いなと思っています。(略)</p>
<p>指導者名 A・K 印</p>

K大学4年生M・Yさんの「実習日誌-教育実習Ⅱ-」より抜粋。

資料4-3 実習日誌(抄)(K・Nさん, 2013年6月9日)

<p>学んだこと・感想・反省・自分への気づき・質問事項など</p>
<p>今日は、午前だけの保育であり、父親が保育に参加する父親参観の日でもありました。私自身、実習の中で、保護者の参観日を経験するのは初めてで、父親や子どもにどのように話しかければよいのかわからず、突っ立ってしまうことが多かったように思います。…今日の課題でもある「父親と子どもの関係性を観察する」は、なかなか父親と子どもの二人きりの姿を、緊張してしまって、しっかり見ることが出来ませんでした。登園時を見ても、ほとんどの方が母親と手を繋いで姿が見られます。(略)担任の先生が、どのように保護者と関わっていたかを今すぐに出来るわけではありませんが、保育者になった時に保護者に信頼されるようにたくさんのことを学んでいきたいと思いました。</p>
<p>指導者の所見・助言</p>
<p>父親参観ですが、今日父親参観という言葉を使用せず、ただ参観としている園が多くなってきました。しかし、あえてM幼稚園ではその名称を使っています。家の中でのお父さんの役割は、とても大きいと考えるからです。そこで参観の内容も「お父さんすごい」と思うような参観になるように、どの学年も考えています。お父さんの居ない家庭でも、誰かがお父さんの役割をしているはずで、なので、その方が参加しています。今日一日、お父さんにたっぷり関われるようにお父さん参加にさせていただいています。</p>
<p>指導者名 N 印</p>

K大学4年生K・Nさんの「実習日誌-教育実習Ⅱ-」より抜粋。

資料4-4 実習日誌(抄)(M・Hさん, 2013年6月17日)

<p>学んだこと・感想・反省・自分への気づき・質問事項など</p>
<p>今日の実習では、年長クラスで、消防署見学に行かせていただきました。子どもが安全に消防署や幼稚園へ移動する時は、保育者がどれだけ周囲に気を遣いながら、子どもたちを誘導しているかを知ることが出来ました。子どもたちに、大きな声で道の端に寄るように言うのではなく、しっかりと出来ている子どもを認めることで、広がって歩く子どもに注意を促すことが出来ると分かりました。今回は、初めてで、先生方の指示で動いていたので、次の機会があれば、自分から動けるようにしたいです。(略)</p>
<p>指導者の所見・助言</p>
<p>指示を出す際は、言葉を整理し、何を伝えたいのか、子どもに分かるように伝えることが大事です。それは、個別の活動でも、一斉活動でも、全てにおいて共通することで、是非よく考えて、指示の出し方を工夫してみてください。</p>

さい。

指導者名 H・C

印

K大学4年生M・Hさんの「実習日誌—教育実習Ⅱ—」より抜粋。

おわりに

現行『幼稚園教育要領』が強調する家庭及び地域との連携は、それを実践するにあたって長期の指導計画に位置づけられたねらいと内容を踏まえて、短期の指導計画立案につなげていくことが大切である。例えば、家庭との連携でも、日々の保育の延長上に参観日があり、日ごろの園における保育や子どもの育ちを、園と家庭で共有し、翌日からの連絡帳で連携を深めていくといったものがある。決して、参観日1日を取り出して、イベント的に計画するものではない。

幼稚園と家庭や地域社会との連携を念頭に置いた実践に直接・間接的に関わる教育実習生は、戸惑うことが多いけれども、実習日誌に記されたその実践に対する感想等は拙いながらも大変貴重な意見でありフィードバックすることでよりよい実践につなげることができる。そのためにも、幼稚園等が行う実習前のオリエンテーション時に、実習期間中の予定の確認に終始せず年間指導計画等を提示するとともに、家庭・地域社会との連携の実態や姿勢を改めて確認し、それを教育実習生と一緒に実践へとフィードバックする必要がある。このような作業を通して幼稚園の家庭および地域社会との連携が、より充実したものとなっていくであろう。

ただ、指導計画に沿った保育実践、実践後の反省、反省を踏まえた次の計画策定や実践にフィードバックすることによる効果の検証は数年単位で行うことが必要であると考えられるが、その経年変化を次の研究課題としたい。

引用文献

- 梅根悟編. 1968. 『保育原理』(誠文堂新光社).
- 浦辺史, 宍戸健夫, 村山祐一編. 1981. 『保育の歴史』(青木書店).
- 立川多恵子・上垣内伸子・浜口順子編. 2001. 『自由保育とは何か』(フレーベル館).
- 田苗孝子編. 2012. 『教育課程 2012—21世紀の幼児教育計画—』(宝仙学園幼稚園).
- 林久雄・吉田宏岳編. 1981. 『保育原理』(福村出版).
- 林秀雄編. 2011. 『豊かな保育をめざす教育課程・保育課程』第2版, (みらい).
- 文部省. 1948. 『保育要領—幼児教育の手引—』.
- 文部省. 1979. 『幼稚園教育百年史』(ひかりのくに).
- 文部省・文部科学省. 改訂年度版『幼稚園教育要領』.
- 文部省・文部科学省. 改訂年度版『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館).